

ここが Point! 〈as if [though] ...〉 の中の時制

仮定法は時制の一致を受けないので、主節の動詞の時制によって、〈as if [though] ...〉の中の仮定法の形は変わらないとされる。これはどういうことだろうか？

(a) She **behaved** as if she **were** a queen.

彼女は、まるで女王でもあるかのように振舞った。

(b) The house **looked** as though it **had been built** in a great hurry.

その家は大急ぎで建てたかのように見えた。

もう少し細かく見てみよう。

(a) では主節の動詞 **behaved**（過去形）が〈基準〉になる。as if の節が仮定法過去で表されているというのは「**behaved**（過去形）を〈基準〉とした『現在に対する仮定』」を意味する。よって、過去の事実に対する仮定を表していることになる。訳についても注意が必要。**behaved**（過去形）〈基準〉と **were** の時点が「同じ時」なわけなので「女王であるかのように」と訳すことになる。「女王だったように」と訳してはならない。

(b) では、主節の動詞 **looked**（過去形）が〈基準〉になる。as if の節が仮定法過去完了で表されていて「**looked**（過去形）を〈基準〉とした『過去に対する仮定』」を意味する。よって、大過去の事実に対する仮定を表していることになる。**looked**（過去形）と **had been built** の指す時がズレているから「建てたかのように」と訳さないといけない。

発展 as if [though] 節中の直説法

主節の動詞が現在形の場合、as if [though] に続く節の中で、話し手が事実とみなしている、あるいは実現可能性が高い場合には直説法が用いられる。次の2例を比べてみよう。

(a) They are behaving **as if** they **were** friends.

(b) They are behaving **as if** they **are** friends.

(a) の場合は「友達でもないくせに」という話し手の判断が含まれている。一方、(b) の方は「友達なんだろう」という確信度が高いことがわかる。次の例では、話し手が「雨が降りそうだ」と感じているので、直説法が用いられている。

It seems **as if** it **is** going to rain.

これから雨が降りそうだ。〔→降りそうだと感じている〕

※(話)では、as if の代わりに like を用いて、

It seems **like** it **is** going to rain. のように言うこともできる。

